

令和7年 市政ふれあい懇談会要旨

- 開催日時 令和7年5月17日(土) 14時～15時30分
- 開催場所 天王台北近隣センター
- 参加者 市民7名
- 出席者 星野市長、高見澤企画総務部長、中光財政部長、海老原市民生活部長
大井環境経済部長、海老原建設部長、中場都市部長、担当課長等16名

■懇談内容

●不審者情報について

市民：2人の未就学児の女の子を育てています。2点ほどお願いにあがりました。公園に行くと不審者に会うことが多いです。警察や市役所が行っているX（エックス）など、いろいろ登録しているのですが、全然不審者情報が入ってこなくて、幼稚園ではなく小学校では不審者情報を得ることができるようです。未就学児の親にも不審者情報が得られるシステムを作っていただきますよう、お願いいたします。実際、4回ぐらい付きまとわれた事がありましたので、よろしく願います。もう1点ですが、国をあげて移民推進とか多様性などを推進していると思いますが、我孫子市も中東系の方が多く見受けられます。一生懸命働いて、日本語学校に通われているかと思いますが、あまりにも多くて、川口市でも問題になっているようですが、私は、台田のベルクと天王台西公園で中東系の男の人に子供連れて付きまとわれて、ちょっと怖い思いをしました。治安悪化というのを身をもって体験しました。もちろん、少子高齢化で外国人が必要なのはわかりますが、受け入れに上限や条件を決めていただけると子どもを持つ親としては、安心いたします。以上です。

市民安全課長：不審者情報は学校単位ですと少年センターから警察、警察から市の方にメールやFAXで情報が入ります。警察、我孫子市ではX（エックス）を行っています。行方不明者であれば、防災無線を流したりすることはあるのですが、不審者情報は規定上、流せない状況です。先日、警察とも話をしまして、やはりX（エックス）同士の連携がとれていないという話がありました。今後は、警察で不審者情報を流すのであれば、市の方でもLINEやX（エックス）などで、情報提供ができる場面もあると思いますので、連携できるかどうか前向きに検討させていただきます。

きます。直ぐに情報をお伝え出来ず、タイムラグはあるかと思いますが、検討いたしますので、しばらくお時間をいただきたいと思います。

市長：保育園、幼稚園等では、なかなか厳しいですが、小学校単位という形ですけれど、なるべく情報を流せるように警察と話をさせていただきます。

もう1点ですが、移民政策を推進しているとは私は認識していません、来るものは拒まずというふうに認識しています。外国人については、確かにコロナが明けてから非常に多く、我孫子市に来るようになりました。特に、東南アジア系の方が増えています。外国人登録者は、もうすぐ4,000人になります。市の人口の3%ぐらいになるかというところです。我孫子には、大学が2つあって、NECもあって、いわゆる留学生と研究者、研修生がいるという状態の中で、そのほかに日本語学校があって、そこで1年半か2年、日本語を勉強した後に、そのまま資格を取って、例えば、介護施設などで働く方が結構いらっしゃいます。国籍別では今までは、中国人がトップでしたが、ネパール人に代っていて、国籍が随分変わってきました。先ほどご指摘のように、東南アジア系の方が増えてきましたが、その方々が全て犯罪者だとは思っていません。ただ、各地域ではゴミの分別や生活ルールの問題が上がってきております。市では、日本語学校、あるいは各大学を通して、日本で生活するためのルールを教えてもらうよう、協力要請をしていますので、これを継続するしかないという状況です。外国人だから全部反対ではありません。日本人でも悪いことをする人はいます。ですから、外国人を差別するのではなく、あくまでも一緒に日本の生活をしていくためのコミュニティとしてのルールを、教えていく必要があると認識しています。少子高齢化が進み、日本の若者が減っていく中で外国人労働者に頼らなければならない現実があるということは、ご理解いただきたいと思います。また、コロナがあけた後の働き方改革によって、バスの運転手が不足しています。特に医師が不足してきて、昨年病院の救急対応を一時引き受けてくれないということがありました。元々少ない小児科の先生のなり手がいません。人がいないため、大学病院からの医師の派遣が出来ない状況となっています。小さいお子さんをお持ちとのことですので、まず、かかり付けの内科の先生、外科の先生など地元でしっかりと相談に乗ってくれる先生を見つけることが、一番の早道だと思います。なお、7月1日からはJAとりで総合医療センターで、県内の医療機関においてのみ適用される、子ども医療費助成受給券が都道府県の枠を超えて使用で

きるよう、調整を進めております。ＪＡとりでにマイナ保険証を提示することによって、１ヶ月の入院でも 3,000 円ですむことになります。将来的にはマイナ保険証を使うことによって、他の病院にも拡大できることから、取り組みを進めていこうと思っています。

●我孫子駅の整備と市役所本庁舎までの足の確保について

市 民：我孫子駅は、マンションの建設により多くの利用者がいて、特に北口の朝のラッシュ時は、サラリーマンや学生さんなど、かなり多くの方が利用します。つきましては、改札口をもう一つ作ってほしいという要望です。我孫子駅には、現在メイン改札が中央にあって、それから北口と南口側にできるようになっていますが、北柏方面に小さくてよいので自動改札を作っていただくと、グランレジデンスの住民などが我孫子駅へアクセスしやすくなります。いろんな制限もあると思いますけれど、朝のラッシュのピーク時だけでも使えるような改札口を、何か所か作っていただければと思います。２点目ですが、我孫子市役所前のバス停から本庁舎に向かう坂は、夏場ではお年寄りにとっては大変苦勞する坂です。猛暑ではお年寄りが倒れてしまうのではないかと思うぐらいです。つきましては、駅から市役所正面玄関まで何かマイクロバスで十分だと思うので、高齢化が進む中ご対応をお願いしたいという要望です。

市 長：我孫子駅の西口改札につきまして、ＪＲと交渉した経緯があります。その際、要求した側が全額出すことが条件でした。18 年前で 2 通りの方法がありましたが、当時で一番安価な方法で、我孫子駅北口の隧道をくぐった後の右のカーブから駅に上がってホームにおりる方法が、工事費 20 数億円、もう一つの方法は、新松戸駅のように道路からホームに直接上がる方法が 40 億円かかると言われました。今、五本松公園のサッカー場や湖北の消防署、湖北小学校の体育館など、いろんなところで工事が行われていますが、建設費用が当時の 1.5 倍から 2 倍となると思われます。ですから、現実的には非常に厳しい金額となりますので、この金額が出せるかということになります。柏駅の南口改札も柏駅周辺の利用者や企業事業者が寄付したので、工事が出来たようです。我孫子駅の乗降者数は、3 万人ほどですから、そのレベルではＪＲは工事を行いません。工事の金額をどこから捻出するのが一番の課題となりますので、市のいくつかの事業を止めなくてはならなくなります。

我孫子は東葛で最も高い高齢化率で、社会保障費関係が上がってきております。現実にも改札の事はJRに話をしていますので、お気持ちはわかりますが、このような状況であることをご理解ください。

あと、市役所前へのアクセスについてですが、市役所本庁舎を建設する際、今よりももう少し東側の案が出ましたが、旧沼南町にアクセスしやすい場所として現在の場所になったと認識しております。本庁舎も50年が経っていますので、そろそろ建替えるしかないと思っています。坂道につきましては、高齢化で市の人口の13万1千人のうち4万人以上が65歳を超えていて、75歳を超えている方が、2万5千人いるという状況ですから、坂道がきついという話は直接聞いております。建物も古いですからエレベーターもついていません。エレベーターを後付けしても、建築違反になりますので、それであれば、市役所を移転する検討をしなければと思っています。本庁舎の近くに介護施設がありますが、あの高さぐらいが制限になりますので、本庁舎の土地を売却して、建て直しをと考えましたが、なかなか地権者との話し合いがうまくいきません。現在、何処にということとは言えませんが、もう少し駅の近くに移転して建て替えた方が早いだろうと思っています。また移転をして建て替えとなりますと、その間の仮庁舎が必要になりますので、仮庁舎を取り壊すのであれば、最初から建てた方が良いと思っています。先ほどのご意見は、私自身も十分踏まえて、また他の方々からも随分とお声をいただいているところですので、場所の設定を検討しながら、今言った課題が解決出来るような場所を地権者さんと相談していきたいと思っております。

●水害対策について

市 民：水害対策を推進していただき、大変ありがとうございます。その中で、柴崎雨水幹線事業の内のJR横断部管路実施設計について、懸念する点が多数ありますので、本日は、4点に絞って見直しをしていただきたいと思います。

一点目は、雨水の流出係数を0.5で設定していることです。モデル地区の流出の平均値を天王台地区の流出係数とみなしています。しかし、浸水対策を真っ当な部分にするためには、常磐線横断の上流地区の土地の利用状況を実態に合うように把握して、流出係数を設定する必要があります。モデル地区の一つの新木地区の流出係数は0.54です。割合は、新木地区より天王台地区の方が少ないと推定できます。そうすると、天王台地区の流出係数は0.55を上回ると推定できるわけです。実態

を過小評価する流出係数の 0.5 を元にしたシミュレーションは、絵空事でしかありません。このような現実離れした実施設計では、市民の納得は得られません。我孫子市の排水計画技術基準では、技術係数を概略 0.7 で選出するように推奨されていることも併せて勘案しますと、流出係数を上方に修正して再計算していただいて、納得できる管路の見直しをお願いします。

2 点目は勾配の数値が、実施設計の表と図と文章とで数値がバラバラで、どの数字が正しい勾配なのか疑問が残ります。勾配の係数を検索すると 0.8 から 1.4 までの相違があります。勾配の相違は流速の相違に繋がり、流量が違ってきます。したがって、シミュレーション結果が正しいか確認できず、納得できるものにはなっていません。正しい数値を確定させてください。3 点目は、検討した管渠案の中に 2,400 ミリの底部インバートのない案がありません。実施設計で検討しているインバート付きの 2,400 ミリ管のインバートの高さは 143 ミリになっています。これは、2,400 ミリ管が J R の離隔条件をクリアするために発生したものです。インバートがない 2,400 ミリ管の場合は、下流側の管底と接続し、上流側が 143 ミリとなります。このスムーズな水流の障害の段差の形状を損失水頭が最小になるように処理することで、2,200 ミリ管より 2,400 ミリ管の方がより、流下能力が高くなり、将来の浸水の発生リスクを低く出来ると思います。市民の安全を決定要素の第 1 において、2,400 ミリ管で設計をするように見直しをお願いします。4 点目は実施設計では、管の満水になる利用条件でのシミュレーションがされていません。管渠が満水になった時に流速及び流量がどのように満たせるのか教えていただきたいです。さらに満水になる時の降水量、降雨量も教えてください。泉のローソン脇の幹線排水量の箇所は、腰までの浸水が発生します。この地点が排水路先の抵抗により 5 年確率を超える降雨となっても、浸水を防止できるような明示をしてください。我孫子 4 丁目地区のように、5 年確率を超える降雨にも備える対策が追加で必要になるような状況を招かないように浸水発生 地区の実情を把握させる形となるよう、見直しをお願いいたします。

治水課主幹：実施設計のご質問ということですが、本日は実施設計書を持ってきていませんので、詳しいお答えは後日させていただきたいと思います。基本的な考えとしては、地域を区分した中で、一定の降雨に対して必要な管を整備するという計画になっていて、全ての実態を把握して計算しているわけではなく、ある程度の許容

を持たせた中で計画しています。流出係数については、地域の実情を市内のある一定の許容を持った中で設定しています。勾配の数値が合わないこと、インバートの取り付きが悪いこと、満水の降雨量ということについては、資料を確認させていただいた上で、ご回答させていただきます。

●コロナワクチンの対策の検証について

市 民：コロナワクチンについて、お聞きします。厚生労働省の発表で、予防接種の健康被害救済制度の審査の認定の最新が5月2日に行ったと思います。これまでの累積で、送達受理件数が1万3,675件のうち、死亡認定が1,600件、障害年金が210件、障害児養育年金6年が1件ということで被害が出ています。

過去45年間の予防接種健康被害認定者数との比較についてまとめているイメージがあって、これまで過去45年間の全てのワクチンの健康被害の認定件数が3,521件。これに対してコロナワクチンとの比がとて多いいということがわかります。mRNAワクチン接種後の副反応疑いの件数が令和6年1月28日報告分までで、副反応の疑い報告が3万7,052件うち重篤症例の8,988件でした。とて多いいと思うのですけれども、また新型コロナワクチン後遺症患者の会ということで国家訴訟をされている方もいらっしゃるかと思います。

こういったことを私はつい最近知ったのですけれども、接種を開始された時に市ではそういった危険性もあると、市民に対して周知されていたのかということ。今現在、高齢者の方々が接種後の粹でいらっしゃるかと思うのですけれど、そういった方々に対する周知というのをされているのか。先週の懇談会でコロナ対策についてお聞きした時に、市はこれまでの振り返りをされますかとお聞きしましたところ、しないという回答でした。こういった状況を考えると、やはり対策が正しかったのかマッチングについて間違いだったのか、振り返りが必要なのかなと思います。アメリカでは政府が正式にラボリンクで、ウイルス自体が自然界に存在しない特性を持っている。ですとか、マスクについても根拠がなかったというようなことが発表されたかと思しますので、そういったことも含めて、振り返りをさせていただきたいと思っています。

市 長：ワクチンについては、国のワクチン行政ですから、市としては当然規定する情報を提供して、受けたい人は受ける。受けたくない人は受けないようにするのが

市の姿勢だと思っております。

当時、ワクチンを市の場合は高齢者の上の年齢から始めて、だんだん若い年齢に下げていったという打ち方をしましたけれども、後期高齢者の人たちが、特效薬と間違えているのではないかと思うくらいに、早く打たせてほしい、早く予約が取れないかなど、いろいろありました。ワクチンは特效薬ではなくて、あくまで予防効果ですから、それは他のワクチンも同じであります。特に日本の場合は、ワクチン行政はすごく遅れていると聞いております。我孫子の場合は国が行っていないワクチンを率先して進めてきました。その後、遅れるように国の方が行ってきただけでもいくつかあります。接種するのは、各個人がご自分で判断をするべきものだろうと思います。それ以外のワクチンについても同様だと思っておりますので、そこについてはそれぞれご判断されるものと思っております。市としては受けた人が受けられるようにするのが市の仕事であり、それが信用できないというのであれば、それはそれで構わないと思います。様々なワクチンの製造方法がある中で、国が行おうとしても、それに対して不安になる方は、たくさんいます。それはヒトパピローマウイルスも同じであって、国家賠償については国の責任においてワクチンを行うので、対応は用意をされています。それについて、市単独で回答することはないという理解をした上で、ワクチン接種に臨まれば良いと思っております。振り返りについては、基本的には1,700ある自治体に一人一人専門家がいるわけではないので、そこはどう考えて、どう総括をしていくのかというのは国の仕事だと思っております。様々な学会があって、その中で議論がされていくのを期待したいと思っております。

市 民：すいませんお答えありがとうございます。やはり自身の判断と受けた人は受けられる。最初からそうだったのですけれども、やはりこういう被害が実際にあったということを知った上で、判断することが必要なのかなと思います。例えば自分のようにインターネットにアクセスして、メリットデメリットの比較ができるとか、そういうあたりですけれども、今もやはり自分の近しい身内だったり、近所の方はこういった実態があるということを知らない。新聞とかテレビの情報でも伝えてくれないので知らない。だから今も、7回目以降も受けているという方もいて、そういった方に私個人が言っても伝わらないし、信じてもらえない。我孫子市のホームページにもこういった情報はここから探せますというふうに、厚生労働省のホームページに飛べるかと思うのですが、そもそもそういったホームページに飛べる

ようなことをわかる人であれば、自分から情報を取りにいった判断できると思うのですけれど、そうではない方も多くいらっしゃると思うので、例えば泉大津市のように積極的に情報提供してくださっていたら、私はとても助かったなと思いました。

市長：新型コロナ、いわゆる COVID-19 (コビット nineteen) や、いろんな病気のいろんなワクチンがあって、全てのワクチンは全てが特效薬ではなくて予防薬であって、残念ながらそこで大きな反応が出てきそうな人がいるというのは、これは全てのワクチンであり得ます。その中で、どのワクチンを選択するかというのは、やっぱり自分なりにきちっと情報を得ていく必要があると思っています。情報は取りに行っていかなければ、何でも教えてくれるわけではありません。どれが良くてどれが悪いかというのはなかなか難しいです。ただ、先ほど言いましたように、日本のワクチン行政はすごく遅れています。ですから、例えば、ご自分が他の病気にかかった時に、どう治療するのか、オペをするのか相談できる、かかり付けの先生がいらっしゃるのが、一番いいだろうと思っています。自分で勉強しようとしてもなかなか幅が広すぎて、賛否が分かります。

市民：長文の質問ですみません。今のお答えを鑑みると、今回出ているような死亡の認定ですとか、薬害の認定も市からの発表などを周知しているというのはなく、自分でネットにアクセスできないとか、そういう状況にある高齢者、例えば高齢者の方であっても自分から情報を取りに行かないといけない。ということですか？

市長：市内での数というのは基本的に出ませんから、全体の数を出すことによって求めるものは何ですか？危険だという当時マスコミが言ったようなやり方ですか？ワクチンを使うことによって、助かった人がたくさんいるという現実を踏まえると、ご自分がやっぱり判断するしかありません。確かに、先ほどから繰り返しになりますけれど、ワクチンは何人かの人には大きな副反応が起きて死亡する方、重篤な状態に陥る方がいらっしゃったという事実。それと、今回の新型コロナワクチン。確かに mRNA というやり方というのは、新しいやり方で非常に大きな不安もありました。ずいぶんとマスコミでは、批判的な映像が流されたという認識をしていますから、あのときのマスコミ報道を見るだけでもずいぶんと不安を感じた人は、たくさんいらっしゃったという認識をしています。当然、その中でも、超過死亡数につ

いての話も出ていましたから、あの状態ですと私からするとマイナスのイメージのマスコミ報道がずいぶんされていたという認識をしています。だから、今回も不安に感じるのであれば、受けない方が良いのではないかと考えています。

市 民：わかりました。ありがとうございました。